

2024 年度 政治学インターンシップ テーマ探究：東北被災地研修 実施報告書

9月26日から28日にかけての日程で、政治学インターンシップ（テーマ探究・東北被災地研修）の現地研修を実施いたしました。

この科目では、東日本大震災の被災地を訪れたうえで現状を確認し、行政や地域の活動に関わる方々や被災された方々との意見交換を行います。これらの活動を通して、震災当日や震災前の取り組み、復興計画と現状などをさまざまな角度から検討し、防災と復興について主体的に学ぶことを目的にしています。2024年度も政治学科の学生だけでなく、他学部他学科（経済学部社会経済学科）の学生も参加しました。

現地研修を行うにあたり、参加学生は各々の興味関心に沿わせながら事前学習を行いました。グループごとに担当地域の被災状況や被災地域の基礎情報について調べたうえで、その成果を発表し、かつ現地で何を調査するかについて準備を整えました。

現地ではさまざまな地域を実際に訪れ、3つのアプローチで研修活動を行いました。第1は震災遺構などの見学です。被災状況について視覚的に、また語り部の方のお話を伺いつつ、質問や意見交換を交えながら学修しました。



（左）気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（旧気仙沼向洋高校）の見学
（右）大川小学校跡地にてお話を伺う

第2は復興した様子、震災から13年経過した地域の現状を視察することです。盛り土して現地再建した街並み、高台へ移転した地域を実際に確認しました。



（左）女川町復興商店街
（右）名取市閑上地区・かわまちてらす閑上付近の様子

第3はヒアリングならびに意見交換です。被災の状況や復興、防災について、自治体の観点、地域コミュニティの観点、企業の観点からそれぞれお話を伺い、事前学習の成果を基に意見交換を行いました。



(左) 南三陸町いりやどにて、震災当時の副町長であった遠藤氏との意見交換
(右) 東松島市野蒜地区にて、東松島市復興政策課の宮崎氏との意見交換

これらに加え、バス移動中に宮城教育大学の武田真一先生から、各視察先のさらなる情報、2024年の能登半島地震に関する話をはじめとして、研修がより豊饒になるお話を伺いました。今回の研修を通じて、防災や復興について数多くの示唆を得られたかと思えます。

最後となりますが、視察や意見交換を受け入れていただいた皆様、また各所とのコーディネートならびにガイドもご担当いただいた武田真一先生のご厚意、ご協力によって今回の現地研修を実施することができました。厚く御礼申し上げます。